

～輝きの子育て～

ひやくせつふとう

百折不撓の精神

中国武漢に端を発した新型コロナウイルス。その猛威は全世界を侵食し、とどまるところを知らない。ウイルスの脅威、恐るべしである。

この感染症も 20 年前なら中国一地方の風土病で終わっていたかもしれないと言われる。それが全世界に及んだのは、中国が「世界の工場」になっていることと無縁ではない。加えて、中国が国を挙げて推進してきた一帯一路政策も感染に拍車をかけた、とも言える。新型コロナウイルスは図らずも、一国の動きが全世界と密接に繋がっていることを明らかにするものにもなった。

日本も四月七日、安倍首相が緊急事態宣言を発令、五月末には全都道府県の宣言が解除された。この間の政府の施策はもちろんだが、何よりも国民一人ひとりの懸命な努力と忍耐が、一日も早く平穏な日々を甦らせる最大の力となる。

歴史を振り返れば、人類が生命の危機に直面したのはこれが最初ではない。百年前のスペイン風邪では、世界中で五億人が感染し五千万人が死亡、日本も当時の総人口五千六百万人のうち、死者は五十万人近くに上ったと言われる。毎日のコロナ報道を見ていると、いつまで続くか予測できない状態に暗澹とする。しかし、人類は幾度もの危機に遭遇しながら、その都度危機を乗り越え、今日まで歩んできたのである。つまり、現在の状況は必ず克服されることを歴史は私たちに教えてくれているのだ。そのために大事なものは何か。感染症のウイルスは身体に忍び込むが、同時にここに忍び込もうとするウイルスがある。困難に耐え努力する心を蝕むウイルスである。心の免疫力を高めなければならない。その何よりの特効薬は、よき言葉、よき教えに触れることではないだろうか。

百二十二歳まで生きたジャンヌ・カルマンは長生きの秘訣を問われて、「二つあります。笑うこと。退屈しないこと」と答えている。百二十二歳まで元気に生きた人は心身のウイルスに勝ってきた人であり、そういう人の言葉には力がある。こういう言葉に触れることは心の免疫力を高める。感謝すること、感動することも心の免疫力を高める要素となろう。

坂村真民さんの詩も心の免疫力を高めずにはおかない。

人間が真の人間になるためには いくたびかの試みに会わねばならぬ 試みには 神の試み 悪魔の試みがある いずれにしても いくたびかの試みに会って 初めて人は本ものになる

「仏のころ」と題したこういう詩もある。

追いつめられて 初めて人間は 本ものになる だから本ものになるためには 絶対絶命の瀬戸際に 立たされねばならぬ

「文明の最高目的は人間人格の発展である」という A・カレルの言葉がある。天は人類をして「最高目的」を果たさせるべく、その自覚を深めさせるために今回の試練を与えたのではないか。そんな気がする。

思えば、人類の歴史はウイルスとの闘いの歴史であった。その闘いに打ち勝って、あるいは共生して、人類は前進してきた。百折不撓—どんな困難にも屈しない。百遍倒れたら百遍立ち上がる。それが人類の DNA である。この DNA をフルに発揮し、私たちもこの苦境を克服したい。

片野 英子